



お問い合わせ
政策推進課
☆4-2511-102
内線231

先月号から「森の寺子屋かわら版」を連載し、「森の寺子屋」に関する疑問や不安についてお答えしました。今月号と来月号では、過去に「森の寺子屋」に参加したプレイヤーを紹介いたします。どんな人が、どのような想いで、何について取り組んでいたのか、「森の寺子屋」を通し行われたユニークで熱意あふれるチャレンジを紹介します。

演劇をもっと広めたい。違う世界、違う人生に入りこめることが演劇の魅力

現在23歳の佐藤飛鳥さんは2017年に下川町へ移住しました。高校卒業後は役者の専門学校に入学。「小さいころは人前に出ること自体に抵抗がありま

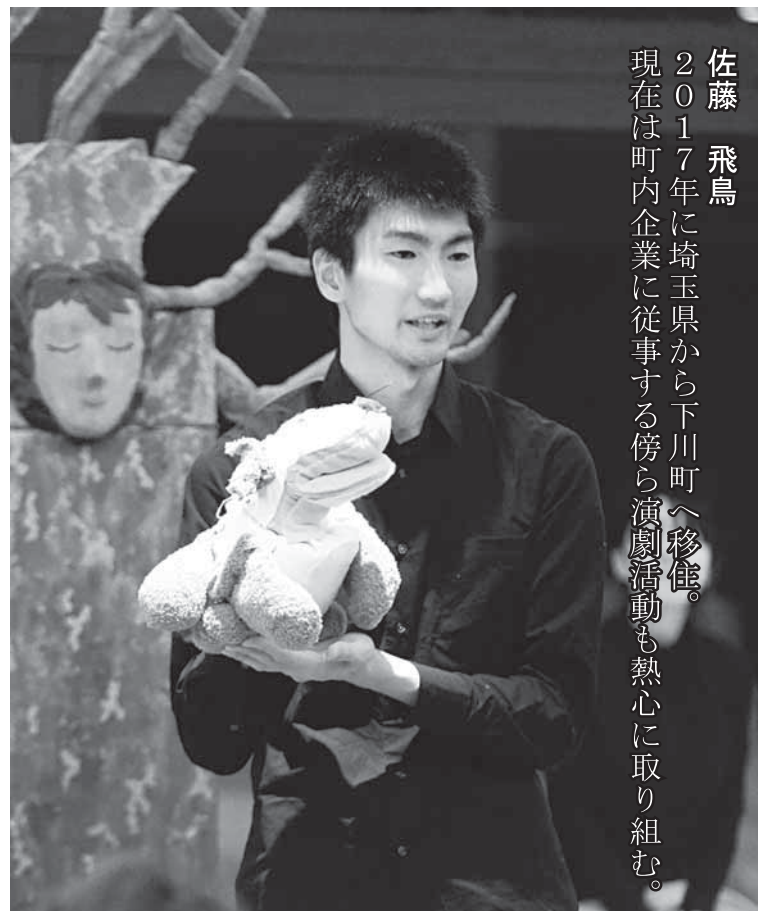
下川町でも演劇を広めたいけれど、どうしたらいいかわからない……

演劇を広めたいと強く感じてはいるものの、「何から始めればいいのか」と不安を抱えているとき、チャレンジを応援する「森の寺子屋」の存在を知り参加を決意。森の寺子屋では、自身のチャレンジを発表し、参加者みなでアドバイスをし合ったり、アイデアを出し合いました。参加者から「まずはできること一つ一つを積み重ねた方がいい。紙芝居とかアフレコ、



寺子屋の活動：プレスト(アイデアの出し合い)の場

佐藤 飛鳥
2017年に埼玉県から下川町へ移住。現在は町内企業に従事する傍ら演劇活動も熱心に取り組む。



した。映画鑑賞が趣味で、いつしかこの人達みたいになりたいたいと思うようになりました。」
こうして佐藤さんは「演

劇」への想いを強くし、役者の専門学校へ進むのでした。その後、プロの役者を目指すか悩んだ結果、一般企業への就職の道を選び、下



寺子屋の活動：取組発表の場

人形劇とかどうかな」「一緒に過ごそうかな」など、自分が思いつかないようなアイデアや実現へのアドバイスを毎回もらえたことが「森の寺子屋」に参加して良かった点であり、自身の行動の指針となったと佐藤さんは言います。

アイスキャンドルミュージアムで人形劇を披露

「森の寺子屋」の参加者から得たアイデアやアドバイスをもとに、どうしたら演劇を広められるか考えた

佐藤さん。もともと親交のあった演劇仲間にか一緒に創作できないか相談し、「一緒に人形劇をやる」と決意。そして、仲間とともに2020年2月のアイスキャンドルミュージアムにて、人形劇を披露しました。会場となった「コモレビ」は会場を埋め尽くすほどのお客さんがあふれ、大盛況でした。

「今後も機会があれば下川で演劇を通じた活動をしていきたい」と今後への想いを強く語る佐藤さんでした。



『森の寺子屋』2020説明会開催

今年度開催する「森の寺子屋」の説明会を下記のとおり開催いたします。お申込みいただく人のご都合に合わせて下記の日程内で時間・場所を調整させていただきますので、以下の電話・ファックス・メールなど任意の方法でお申し込みください。

森の寺子屋の雰囲気やどのようなことを行っているのか、ご自身で考えているアイデアなど些細なことでも構いませんので、お気軽にご連絡いただけましたら幸いです。皆様からのご連絡お待ちしております。

■開催日時 7月6日(月) ~ 7月10日(金)
場所・時間はご連絡いただいた人と調整させていただきます。
■受付期間 7月10日(金)まで

■お問い合わせ
政策推進課 担当：和田
☎ 4-2511(内線231) FAX 4-2517
メール k.wada@town.shimokawa.hokkaido.jp



川町へ移住を決意。移住後も演劇に携わりたいたいという想いは変わらず、近隣地域で演劇が盛んに行われていることを知り、自らも2018年から毎年のように名寄市や士別市で市民劇に参加し、演劇活動をしていきます。

いつしか佐藤さんは「演劇は違う世界や違う人の人生に入り込めることが魅力です。下川町でも演劇を広めていきたい。演劇を観たり創ったりする文化を根付かせたいです。」と下川町で演劇活動を行いたいと言います。